

その いずみの園だより 53

vol.

2011.12.8

クリスマス号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。コリントの信仰への手紙 I 13:13

基本理念

神と人にと仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする

①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
介護保険総合ケアセンターいずみの園

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 (代)
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp

ISO9001 認証取得



2002年3月26日
高齢者介護及び
リハビリテーションサービス



日本基督教団 中津教会

不安の中にも喜びを



社会福祉法人 九州キリスト教
社会福祉事業団

理事
齊藤 昭夫

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」(ルカによる福音書2章10・11節)

今年もクリスマスを迎える季節になった。過ぎた一年をふりかえり、新年を迎える気持をととのえたい。

世界で大きな問題はギリシャの大きな借金から政治的混乱となったことだ。ギリシャの不良債券を放置すれば、欧州連合(EU)や世界各国に深刻な影響を与える。EUなどの支援を受けることになり、どうやら借金を返せなくなる事態は回避されそうだ。イタリアも危いらしい。

ギリシャとは比較にならない程多い借金の日本は、このままではいくと危いことになるかも知れない。東日本の大震災と原発事故から復興しなければならぬ。円高の進む中、企業が悲鳴をあげ、大学を卒業しても就職困難な時代だ。高齢者が急速に増える中で老後難民という言葉が生れている。百年に一度の国難の真最中である。誰もが不安と困難の中で年末を迎えているのではなからうか。

イエス・キリストの誕生の時代は、イスラエルの国がローマに占領されていた。自国の王とローマに対し、二重の税金を払い、庶民の生活は屈辱と貧困に満ちていた。今は不安であり苦しくても、神の愛を受け、イエス・キリストが共にいてくださるから、困難に負けない筈だ。いずみの園全体が悲しみと困難を分かちあい、共に生きる者、家族のような仲間であることを信じている。関係者の御多幸を切に祈る。

2011年度第3回法人理事会・評議員会開催

―多田一三理事長が退任され、

新理事長に富永健司氏が選出されました―

11月30日(水) 10時30分から法人評議員会が、13時から理事会が開かれました。2011年度としては3回を数えますが、9月から新しい任期が始まって最初の理事会・評議員会となります。

今回の理事会では、多田一三理事長が体調を崩されたため理事(理事長)・評議員職を退任する旨の届出があり、これを受けて定款に基づき新理事長の互選が行われました。その結果、富永健司氏(現常務理事)が、満場一致で選任されました。



理事長
富永 健司

「九州キリスト教社会福祉事業団

新理事長として

これまでの多田理事長のお働きに感謝しつつ、役員職の皆さまのご協力をいただきながら職責を果たすべく全力を尽くします。事業の総合化、複合化をすすめる、社会福祉法人としての公益性を堅持しながら、地域の皆様に愛される「いずみの園」を目指してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

また評議員会では多田一三理事長の理事退任を受け後任の新理事には多田玲子氏(現評議員)が推薦され、全員の賛成によって選出されました。なお、新評議員に犀川のぞみ保育園園長池上信也氏が選ばれました。

次に、審議事項については、新しい事業として、小規模デイ・サービス事業の来年4月からの実施が審議され了承されました。

続いて第2回の理事会等で提起された①「共生型」事業の準備、②障がい児・者事業(働く場、すまいの確保)での進捗状況や③事業所内保育施設「マリアガーデン」の来年4月からの開所に向けての諸準備などについて報告がされました。

【報告】これに先立ち去る28日に当法人と同様、多田一三氏が理事長を務める社会福祉法人栄光園についても、多田理事長の退任届を受け、富永健司氏が新理事長(現理事)に選ばれました。

理事



多田 玲子

2011年8月11日以降

人事関係

1 昇格

9月1日付
未延 政光 経営企画室 主任

2 異動 役職者

9月1日付
田中 伸治 在宅サービス事業部障害者生活支援センターエマオ 主任

3 異動 一般職

9月1日付
高西 保行 特養事業部相談課 生活相談員
島元 春樹 特養事業部相談課 事務員兼務介護員
山田 大輝 在宅サービス事業部グループホームペテルハウス 介護員
柳 良一 在宅サービス事業部デイサービス課ふれんど館 看護師

4 新採用

8月24日付
福澤 瑞穂 在宅サービス事業部訪問介護課 ヘルパー
溝部ちか子 在宅サービス事業部訪問介護課 ヘルパー

9月1日付
山田しのぶ 特養事業部介護課 介護員

11月1日付
水嶋 裕介 在宅サービス事業部デイサービス課ふれんど館 介護員
山口 朋己 特養事業部介護課 介護員

11月10日付
厚ヶ瀬桂子 在宅サービス事業部寄り合いセンターいずみ 介護員

11月14日付
吉田祐美子 特養事業部看護課 看護師

11月16日付
大島 伸城 在宅サービス事業部介護保険サービスセンター 介護支援専門員
(以上11月30日まで)

いずみの園 伊藤保幸氏が中津市より表彰されました。



11月3日(木)に行われた、中津市表彰の一般表彰において、「介護認定審査員として介護サービスの向上に尽力」により、中津市地域包括支援センターいずみの園伊藤保幸課長が、表彰されました。

中津市表彰は毎年11月3日(文化の日)に行われ、今年は自治表彰で29名、一般表彰で19名・17団体の方々が表彰されました。

伊藤さんに感想を聞きませ「社会福祉士として果たせる役割を考えつつ、合わせて国の示す基準を遵守しながらの介護認定審査会は全てのケースについて、この介護度でいいのか判定を悩んでいます。しかし、他の委員の方々の合議や皆様方の支援により継続する事ができています。今後も中津市の介護福祉のために微力ですが、頑張って行きたいと考えます。」

大分県庁部長会議において、 当園施設長が講演しました

11月8日（火）、正午からランチミーティングとして大分県庁の副知事をトップに議会事務局長・教育長・各部署長などで隔月毎に開かれている各分野の講師から話を聞く部長会議B・Lに、県永松福祉保健部長らの推薦で当法人の「いずみの園」富永施設長に招致があり、「これからの高齢者福祉を考える」その人らしい豊かな人生を生きるために」について1時間30分にわたり講演と懇談をする機会がありました。

富永施設長からは、法人としての理念や中津市における地域包括システムの構築に向けた「夜間対応型訪問介護事業」や「地域密着型居宅介護」などについての現状と、社会福祉法人としての存在意義、サービスの質の確保、みんなが安心して暮らせる共生型社会づくりなどについて説明し、その後懇談に入り、「子育て満足度、日本一大分」に続く、「高齢者も障がい者も安心、日本一大分」を、県中津市と協働して進めることなどについて県庁幹部の方と意見交換しました。（経営企画室）



大分県老人福祉施設協議会

県北ブロック職員研修会に参加しました

かきせグループホームけやき 主任 友清 賢

11月11日（金）大分県老人福祉施設協議会主催の県北ブロック職員研修会が開催され総勢97名の福祉施設職員が集まりました。いずみの園からは20名のスタッフが出席しました。

那須会長（悠久の里施設長）から「11月11日は介護の日です。こうした日に介護に携わる職員の勉強会をすることは大いに意味深く思います。」との挨拶のあと、研修に入りました。

研修テーマは「福祉従業者の価値観と職業倫理」～自分が利用したい施設を目指す～と題し講師の明石二郎先生（社団法人大分県社会福祉士会理事）により、1時間半の講義を学ぶことが出来ました。その後は、18時30分から懇親会で施設の職員の方と情報交換をし、また、料理に舌鼓を打ちながら有意義な研修会となりました。

県北ハーモニー フェスティバルに 参加しました

11月19日（土）、中津市内の社会福祉施設（高齢者、障がい児、児童養護、社会事業授産の各施設）11施設の利用者約270人が、ダイハツ九州アリーナに集まり、いろいろな競技に汗を流し、大きな声援を送り1日を過ごしました。



10時からフェスティバル実行委員会の幹事施設のヨゼフ寮の開会宣言、主催者の那須協議会会長のあいさつ、中津市長代理の尾冢市福祉部長の来賓あいさつの後、競技が始まり、玉入れや綱引きなどの熱戦に参加者へ盛んな応援を送ったほか、八千代保育園の園児によるかわいいうちまこ舞や糸口学園の利用者さんによる一糸乱れぬ力強い太鼓演奏などが披露されました。

いずみの園からは10名の特養ご利用の方が参加され、玉入れなどに参加しました。皆さんお疲れ様でした。

（特養事業部相談課）

「共生型」を目指して

「かきせにおける高齢者、障がい者、子どもがいきいきと暮らす街づくり」

当法人では、「共生型」といわれる事業（高齢者、障がいのある人・子どもが「通い」「訪ね」「集う」などして交じり合う場を作り、地域住民参加型でともに地域で生きるといふコンセプト）に基づき、何をどう具体化していくかについて議論し、一定の方向性を出していくための検討を始めました。

特に、今夏、中津市で開催された『よろこぶち生きる・福祉の里づくりのススメ』全国セミナーで議論された地域住民と市社会福祉協議会、中津市をはじめとする行政、各種社会福祉の事業所が協力し合って独自のサービスシステムを構築していくことが謳われました。そのため、今後、行政とも理解と協力をいただいて進め、近い将来、「かきせサポートセンター」（サービスシステムの既存建物を建替）において、当法人の理念のひとつであるローカリティ（地域主義）の具体化として、この「共生型」を展開し、社会での居場所として、かつ安全にいきいきと暮らせる地域づくりを進めるための事業を展開していきたいと考えています。

【背景】各種ニーズ調査では、地域において①お年寄りからは、「暇はあるけどお金がない」、②みんなと一緒に話したり、ものをつくったり、歌を聴いたりしてみたい、③障がいのある人からは、「自然に手助けしてくれる人がいて、あったかい雰囲気のところへ出かけてみたい」、④子育て中の母親からは、「子どもが安心して遊べる場所があり、おじいちゃん、おばあちゃんが見てくれたら助かる」、⑤自分も他の母親たちと交流したいなどの声があり、そういう人が行き易く、楽しい場所があれば自分も行ってみたいという声も多くあります。

【具体化のイメージ】『あそこへ行けば楽しい何かがある』、『昔はあったお隣さんつきあいができる気楽な場所』を住民は求めていると思われまふ。

■いずみの園「共生型」コンセプト
気楽に、行き易く、聞く・話す、伝える・学ぶ、体験する をキーワードとし、「地元主義」、「住民一人ひとりの地域での居場所づくり」をめざし、

- ① ② 近所つき合い
- ② 中津の下町づくり（中津でも昔の家族はおじいちゃん、おばあちゃんがいいて、孫がいいて、多くの家族がいた。今はそういう場が失われつつある。）
- ③ 広場がつくるまちの賑わいのスペースが作れたらと思っています。

（経営企画室）



いずみの園広場

ご利用者ご家族の声



グループホーム

ベテルハウス

一森チエ様ご家族 馬場 文子様

現在92歳の母は、カラフルな屋根瓦も素敵な明るい雰囲気
のグループホーム「ベテルハウス」で暮らしています。
若くして夫に先立たれた母は、子供が独立した30数年間、
独り暮らしを続けていました。それでも歳には勝てず、「ケ
アマンション聖愛ホーム」を経て4年前より「ベテルハウ
ス」にお世話になっていました。

認知症の母は、今あった事や自分の行動もすぐに忘れて
しまいます。母にしてみれば辻褄が合わない、納得いかな
いと不安な気持ちになるようです。そのためか介護職員の
方に感情をぶつけご迷惑をかける事も多々あったので
が、その都度種々対策を
立て親身な対応をしてい
ただき本当に救われる思
いでした。私ですと母の
言動に振り回され、時
には暴言を吐いたりして大
変な状況になりかねませ
ん。心と時間のゆとりを
与えて下さる職員さん
のおかげで母に優しく接
する事ができます。温かい
ホームの皆さんに心強く
支えられ、母も私達子供
一同、感謝の気持ちで一
杯です。



在宅ご利用者ご家族の声



小規模多機能型居宅介護

寄り合いセンターいずみ

渡邊千代子様ご家族 渡邊久美子様

主人の母は6、7年前から、暴言や暴力、昼夜を問わず
の徘徊といった認知症状が開始しました。しっかり者で頭
のきれた母の変わり様に、私達家族は驚きと困惑の日々で
した。そんな時に、知人から介護施設の利用を教えて頂い
たのが一昨年春のことです。最初は「デイサービスセン
ターふれあい館」にお世話になりましたが、「寄り合いセン
ターいずみ」ができてからは、最初からお世話になり、無
理を聞いて頂いています。この数年間に母の認知症状も随
分進み、多くの課題が生まれてきて、それに振り回され、
精神的にも肉体的にもまいりそうになりますが、「寄り合い
センターいずみ」の存在
があることで負担が軽
くなりました。私達家族だ
けではとてもかかえきれ
ません。やさしくもなれ
ません。職員の方にこ
やかに話しかけている母
の姿に、ここに来て良
かったと思います。温か
い対応に、母が安心して
生活でき、何よりも私が
私でいられるのがうれし
いです。

